

第4回瀬戸市基本構想審議会協議事項要旨【R8.5.19開催】

《委員一覧》

	所属等	氏名	分野等
1	南山大学総合政策学部教授【会長】	石川 良文	都市環境政策、地域経済、政策評価
2	株式会社官民連携事業研究所 ※欠席	鷲見 英利	官民連携
3	ラジオサンキュー(RADIO SANQ) 瀬戸市障害者地域自立支援委員会	林 ともみ	福祉（障害者福祉）、マスコミ
4	大橋運輸株式会社	橋本 美香	ダイバーシティ、LGBTQ
5	多文化ソーシャルワーカー	神田 すみれ	多文化共生、外国人の社会参画
6	朝日インテック株式会社 ※欠席	梅村 佳範	地域経済、地域産業
7	名古屋大学情報学部教授 ※欠席	浦田 真由	地域DX、DX推進、オープンデータ推進
8	株式会社PoliPoli	伊藤 和真	GovTech（政治・行政×テクノロジー）
9	東海旅客鉄道株式会社事業推進本部	吉澤 克哉	関係人口創出
10	瀬戸くらし研究所／株式会社きんつぎ	野々垣 賢人	地域デザイン
11	土街人プロジェクト／双寿園	石川 圭一	ローカルコミュニティ、地域課題・魅力の見える化
12	愛知産業大学通信教育部造形学部准教授	堀部 篤樹	建築計画、住民参加型まちづくり
13	名古屋学院大学現代社会学部准教授	水谷 香織	社会的合意形成、参加協働、社会基盤計画

《協議事項》

1 基本構想将来像・キャッチコピーについて

①将来像・キャッチコピー・サブタイトルの位置付け

- ・キャッチコピー、将来像、サブタイトルの関係性や使い分けを確認したい。【吉澤委員】
- ・「人・コト・せと」「自分らしさがかなうまち瀬戸」「化学変化をまちの力に」は、それぞれPR用、市民向けメッセージ、まちの方向性を示す役割を担うものとして整理している。【事務局】

②「化学変化」の考え方

- ・化学変化によって自分らしさを実現するというよりも、「多様な人や価値観が交わり続け、化学変化が起こり続ける状態を目指す」という共通認識のもと、検討する必要があるのでは。【吉澤委員】
- ・「化学変化」の考え方を、どのように将来像へ落とし込むかが重要である。【堀部委員】
- ・「多様な人々の活躍が地域の力につながる」という、化学変化のイメージがしっかりと伝わるような表現にする必要がある。【神田委員】

③「瀬戸らしさ」を踏まえた表現

- ・現在の方向性には共感するが、瀬戸らしさの表現が十分ではない。「1000年続くやきもの文化」という強みを生かし、「1000年」「こねる」「まざる」などの要素を組み合わせることで、瀬戸らしさやシビックプライドを表現できるのではないか。【伊藤委員】

- ・将来像にはやきものなど「瀬戸ならではの」の要素を取り入れ、地域の個性が伝わる表現とすることが重要である。【吉澤委員】
- ・やきもの文化を取り入れることは瀬戸らしさを伝える上で有効であり、より印象的で尖った表現が望ましい。【石川委員】

④将来像・キャッチコピーの分かりやすさ

- ・キャッチコピーだけで全てを伝えることには限界がある。具体的な事例やイメージを併せて示すことで、分かりやすく伝えることができるのではないかと。【野々垣委員】
- ・説明を聞けば理解できるが、言葉だけでは少し分かりにくい印象がある。「人・コト・せと」の見せ方には工夫の余地がある。【林委員】
- ・「人」だけ漢字になっている理由など、説明がなければ伝わりにくい部分もある。【堀部委員】
- ・「化学変化」は、イラスト等で可視化すると理解しやすくなるのではないかと。【水谷委員】

⑤「自分らしさ」の表現

- ・「自分らしさ」よりも「あなたらしさ」の方が、市民一人ひとりに語り掛ける印象になるのではないかと。【林委員】
- ・多様な人々を包み込む意図が伝わる表現について、検討の余地がある。【神田委員】
- ・「自分らしさがかなく」という表現は魅力的である一方、個人主義的に受け取られる可能性もあるため、支え合いの視点も含める必要がある。【橋本委員】
- ・「自分らしさ」は重要な考え方であるが、強調し過ぎると総合計画が個人に偏った印象を与える懸念もあり、今後の人口構造の変化を踏まえながら、個人の挑戦を支える地域社会の必要性や表現を検討する必要がある。【水谷委員】

⑥石川会長総括

- ・「化学変化」の考え方はこれまでの議論を通じて共有されており、総合計画としては独自性がある。
- ・一方で、それ以外の部分については一般的な印象を受ける表現となっている。
- ・今回の意見を踏まえ、より瀬戸らしく、市民に伝わりやすい表現となるよう検討が必要である。

2 基本構想構成イメージについて

①地域資源・多様性について

- ・町並みや建築などの空間的資源も、地域資源として位置付けるべきである。【野々垣委員】
- ・外国人を受け入れるだけでなく、地域を支える担い手として活躍できる視点を盛り込むことが重要である。【神田委員】
- ・人口減少を踏まえると、地域外の活力を取り込む視点も必要である。【吉澤委員】
- ・ダイバーシティの重要性は今後さらに高まるため、多様な人材を受け入れる地域づくりが求められる。【橋本委員】

②課題と将来像の示し方

- ・人口だけでなく、産業やインフラなどの課題についても、具体的な数値や期間を示しながら共有するのが良いのでは。【伊藤委員】
- ・計画は策定後の運用が重要であり、定期的な見直しや改善の仕組みが必要である。【伊藤委員】
- ・課題が前面に出過ぎるとネガティブな印象を与えるため、まずは 2040 年の前向きな将来像を示す

構成が望ましい。【堀部委員】

- ・ 厳しい現状を示しつつも、その先に希望ある未来を描くことが重要である。【伊藤委員】
- ・ 瀬戸市固有の自然や多様な環境の価値を、分かりやすく言語化するべきである。【石川委員】

③将来像を支える基盤づくり

- ・ 将来像の実現には、福祉や支援人材の確保等のソフト面に加え、道路や下水道などのインフラ整備の見直しといったハード面を含めた基盤整備が不可欠である。【水谷委員】
- ・ 次世代に過度な負担を残さない仕組みづくりも重要である。【水谷委員】
- ・ ダイバーシティの推進だけでなく、変化に対応しづらい人を取り残さない視点や、行政による支援姿勢も示すべきである。【林委員】

④分かりやすい情報発信

- ・ 計画を広く共有するためには、動画の活用や直感的に理解できる工夫が必要である。【野々垣委員】
- ・ やきものに関する専門用語については、市民向けに分かりやすい補足説明があると良い。【吉澤委員】
- ・ UDフォントの活用や文字の拡大など、視認性の向上も重要である。【林委員】

⑤石川会長総括

- ・ 資料全体が課題中心となっており、瀬戸市の強みや可能性の表現が不足している印象を受けた。
- ・ 人口減少などの課題を踏まえつつも、「どのようなまちを目指すのか」という理想の将来像を起点としたバックカスティングの視点が重要である。
- ・ 市民が夢や希望を持てるストーリー性のある構成となるよう検討を進めてほしい。

《報告事項》

1 次期瀬戸市将来計画全体像・基本計画 イメージについて

- ・ 理想の将来像だけでなく、起こり得るリスクや最悪の事態も想定しながら計画を検討することが重要である。【水谷委員】
- ・ リスクマネジメントの観点を踏まえた「デザイン思考」の考え方が必要である。【水谷委員】
- ・ 計画を実行段階につなげるためには、「釉薬」「火」など瀬戸らしい考え方や施策の大綱について、職員が十分理解できるよう共有する必要がある。【石川会長】

《その他》

● 市長発言

- ・ 人口減少は避けられない課題であるが、その中でも一人ひとりがウェルビーイングを実感できる環境をつくることは可能である。
- ・ 市制施行100周年という大きな節目を迎えることから、暮らしやすさだけでなく「まちを楽しむ」という視点も大切にしていきたい。
- ・ 市民が未来に希望や期待を持ち、ワクワクできる将来像を描ける計画としていくため、引き続き多様な意見をいただきながら計画づくりを進めたい。

以上